

「ダビンチ SP による大腸がん手術 100 例に到達」
～低侵襲で確かな治療を、より多くの患者さんへ～

埼玉医科大学国際医療センター 下部消化管外科では、2025 年 8 月、大腸がんに対するダビンチ SP (Single Port) システムによる大腸切除手術が 100 例に到達しました。

ダビンチ SP は、1 か所の小さな切開から専用のロボットアームを挿入し、術者が高精細な 3D 映像を見ながら精密に操作する最新の手術支援ロボットです。従来の複数の傷を作る手術に比べ、体への負担が少なく、術後の回復が早いことが特長です。特に狭い骨盤内や癒着のある症例でも安定した視野と操作が可能で、当科では結腸がん・直腸がんや再手術症例など難易度の高いケースにも積極的に導入しています。

患者さんの声

「がんの手術＝大きな創のイメージでしたが、たった一つの創でこれまでの手術法と同じように腫瘍がとれたことに驚きました。何事もなかったかのように仕事復帰できてます。とても満足してます。」

(60 代・女性・S 状結腸がん症例)

「創がお臍だけで、鏡を見ても目立たず、大きながんの手術をした実感がなくらいです。こんなに体に優しい手術法があるんですね。」

(60 代・男性・直腸がん症例)

今後に向けて

当科はこれまで培った技術と経験をもとに、より安全で負担の少ない治療を提供し続けます。また、全国的にもまだ限られた施設でしか行われていないダビンチ SP 手術を、多くの患者さんに安心して受けていただけるよう、医療チーム全体で技術の研鑽と普及活動を進めてまいります。

お問い合わせ先

埼玉医科大学国際医療センター 下部消化管外科

(外来予約やセカンドオピニオンについては予約センターまで 042-984-0476)



ダビンチ SP システム 中央が消化器外科 平能康充教授